









	蓬生 (よもぎょう)	凶	四月		関屋 (せきや)	吉	九月
	絵合 (えあわせ)	吉	三月		松風 (まつかぜ)	吉	秋
	薄雲 (うすぐも)	凶	四季		朝顔 (あさがお)	凶	秋冬
	乙女 (おとめ)	吉	四季		玉鬘 (たまかずら)	吉	三~十二月
	初音 (はつね)	吉	正月		胡蝶 (こちょう)	凶	三、四月
	蛭 (ほたる)	吉	夏		常夏 (とこなつ)	吉	夏
	篝火 (かがりび)	吉	初秋		野分 (のわき)	吉	八月
	行幸 (みゆき)	吉	冬春		藤袴 (ふじばかま)	吉	八、九月
	真木柱 (まきばしら)	凶	四季		梅枝 (うめがえ)	吉	一、二月
	藤裏葉 (ふじのうらば)	吉	三~十二月		若菜(上) (わかな・じょう)	吉	春
	若菜(下) (わかな・げ)	凶	四季		柏木 (かしわざ)	凶	一月~秋
	横笛 (よこぶえ)	凶	二月		鈴虫 (すずむし)	凶	夏秋
	夕霧 (ゆうぎり)	凶	秋冬		御法 (みのり)	凶	春夏秋
	幻 (まぼろし)	凶	四季	なし	雲隠	なし	なし
	匂宮 (におうみや)	凶	二月		紅梅 (こうばい)	凶	春

	竹河 (たけかわ)	吉	一~七月		橋姫 (はしひめ)	凶	秋
	椎本 (しいがもと)	凶	四季		総角 (あげまき)	凶	秋冬
	早蕨 (さわらび)	凶	春		宿木 (やどりぎ)	吉	四季
	東屋 (あずまや)	凶	八、九月		浮舟 (うきぶね)	凶	春
	蜻蛉 (かげろう)	凶	夏秋		手習 (てならい)	凶	四季
なし	夢浮橋 (ゆめのうきはし)	凶	夏				

## あらすじ

- 【第一帖桐壺】 光源氏の誕生。母桐壺更衣の死。元服そして結婚。  
父桐壺帝の後妻「藤壺の宮」への思慕
- 【第二帖帚木】 友人達と理想の女性について談義する雨夜の品定め。人妻空蝉との出会い
- 【第三帖空蝉】 部屋を素早く抜け出す空蝉。  
人違いと気付きながらも軒端の萩と契ってしまう源氏。
- 【第四帖夕顔】 夕顔との出会い。一方で六条御息所のもとに通う源氏。  
物の怪による夕顔の急死。
- 【第五帖若紫】 若紫との出会いそして拉致。正妻葵の上との不仲。  
源氏の子を身籠もる藤壺の宮。
- 【第六帖末摘花】 常陸宮の姫君末摘花との出会い。源氏、末摘花の屋敷に泊まる。  
あまりの醜顔に驚く。
- 【第七帖紅葉賀】 宮中での管絃。頭中将と「青海波」を舞う源氏。  
藤壺の宮、源氏の子を出産。
- 【第八帖花宴】 際立った詩才を披露する源氏。  
桜の宴の夜、朱雀亭の妃に決まっていた朧月夜との密会。
- 【第九帖葵】 朱雀亭即位。六条御息所と葵の上の車争い。  
葵の上の出産と急死。若紫との結婚。
- 【第十帖賢木】 六条御息所、伊勢へ下向。父桐壺院の死。藤壺の宮の出家。  
朧月夜との密会が発覚する。
- 【第十一帖花散里】 父という後ろ盾を失い毎日を憂鬱に過ごす源氏。  
情愛細やかな花散里との出会い。
- 【第十二帖須磨】 源氏、須磨へ出立。頭中将(宰相中将)の来訪。  
嵐の夜、夢枕に亡き父亭が現れる。
- 【第十三帖明石】 明石入道、源氏を迎える。明石の上との出会い。  
源氏に召還の旨が下り帰京する。
- 【第十四帖漣標】 藤壺の尼宮との不義の子「冷泉帝」が即位。源氏は内大臣に。

- 明石の上が姫君を出産する
- 【第十五帖蓬生】 自分と深く関わった女性達を屋敷に引き取ろうと考える源氏。  
未摘花との再会。
- 【第十六帖関屋】 逢坂の関での空蝉に消息を送る。空蝉の夫常陸介の死と後日談。
- 【第十七帖絵合】 宮中で絵合が行われ源氏が勝つ。  
源氏、思い入れ深い絵巻を藤壺の尼に差し上げる。
- 【第十八帖松風】 二条院の東院が落成。明石の母が上京し源氏山荘へ。  
明石の上の姫君を紫の上の養女に。
- 【第十九帖薄雲】 思い悩む明石の上。藤壺の尼宮が崩御。  
冷泉帝は実父が源氏だという出生の秘密をしる。
- 【第二十帖朝顔】 朝顔の姫君への恋心を募らせる源氏。  
紫の上に自分と関係した女人のことを打ち明ける。
- 【第二十一帖乙女】 息子の夕霧が元服。源氏、太政大臣に。  
夕霧と雲居の雁との純愛。六条院が完成する。
- 【第二十二帖玉鬘】 亡き夕顔の忘れ形見。玉鬘が美しく成人。  
娘として玉鬘を引き取り花散里に後見を託す。
- 【第二十三帖初音】 うららかな春の六条院の賑わい。  
源氏は二条院の女人達のもとにも訪れ心を尽くす。
- 【第二十四帖胡蝶】 六条院の御殿での舟楽。玉鬘を目当てにやってくる公達。  
源氏もよからぬ思いを抱く。
- 【第二十五帖蛩】 源氏の弟にあたる兵部郷の宮の玉鬘に対する恋慕の念。  
雲居の雁を思いしんみりする夕霧。
- 【第二十六帖常夏】 内大臣（かつての中頭将）が近江の姫君を引き取る。  
田舎育ちの姫君をめぐる笑い話。
- 【第二十七帖篝火】 篝火とともにあかあかと燃える源氏の玉鬘への想い。  
夕霧、柏木、弁の少将の合奏。
- 【第二十八帖野分】 夕霧、六条院の女人たちを見舞い、紫の上をかいま見る。  
源氏、夕霧を伴って玉鬘のもとへ。
- 【第二十九帖行幸】 大原野行幸。内大臣に玉鬘の真相を打ち明ける源氏。  
初めて実父と対面する玉鬘。
- 【第三十帖藤袴】 玉鬘、宮中への出仕が決まる。蛩兵部郷ら求婚者たちは戸惑いを隠せない。
- 【第三十一帖真木柱】 玉鬘は髭黒大将と結婚。髭黒の娘・真木柱は母とともに父のもとを去る。
- 【第三十二帖梅枝】 明石の君の裳着の儀。東宮が元服。  
夕霧と雲居の雁、会うことのできぬ二人すれ違い。
- 【第三十三帖藤裏葉】 夕霧と雲居の雁がついに結婚。明石の姫君の入内。  
源氏、准太上天皇となり人生の絶頂期。
- 【第三十四帖若菜・上】 朱雀院、出家を決意。源氏に女三の宮の後見を頼む。  
柏木の女三の宮への恋慕。
- 【第三十五帖若菜・下】 源氏四十の賀。女三の宮、源氏のもとに降嫁する。  
紫の上、その事実衝撃を受け病臥。
- 【第三十六帖柏木】 女三の宮が、柏木との不義の子（薫）出産。そして出家。  
自責の念がつのる柏木の死。
- 【第三十七帖横笛】 柏木の一周忌。夕霧、柏木遺愛の横笛を贈られる。  
薫を見て柏木に似ていると感じる夕霧。
- 【第三十八帖鈴虫】 女三の宮の出家供養を心を込めて行う源氏。  
源氏、冷泉家に招かれ秋の宴遊へ。
- 【第三十九帖夕霧】 夕霧、亡き柏木の正妻落葉の宮と結婚。

- 夕霧の妻雲居の雁、怒りのあまり実家へ替える。  
【第四十帖御法】 紫の上、法華經千部の供養を行う。紫の上の死。  
源氏ただ呆然自失となる。
- 【第四十一帖幻】 源氏、出家のために身边を徐々に整理始める。  
光源氏を中心とする物語の終わり。
- 【第四十二帖匂宮】 源氏の「息子」薫と孫の匂宮。  
悩み深き薫と恋多き匂宮をめぐるあれこれ。
- 【第四十三帖紅梅】 真木柱と亡き柏木の弟紅梅大納言との再婚。  
紅梅、中の宮を匂宮に嫁がせようとするが・・・
- 【第四十四帖竹河】 二人の娘の行く末について悩む玉鬘。  
大君は冷泉家のもとに輿入れ。泣き暮らす少将。
- 【第四十五帖橋姫】 薫、出生の秘密を知り激しく動揺する。  
源氏の弟・宇治八の宮と娘大君、中の君の登場。
- 【第四十六帖椎本】 八の宮の死。大君への想いを募らせる薫。  
大君は見苦しく落ちぶれることはすまいと決意。
- 【第四十七帖総角】 大君に思いを訴える薫。匂宮、薫の手引きで中の君と契る。  
大君、静かに息を引き取る。
- 【第四十八帖早蕨】 匂宮、中の宮を京へ引き取る決意を固める。  
今上帝の女二の宮との縁談が持ち上がる薫。
- 【第四十九帖宿木】 匂宮と夕霧の娘との結婚。薫も女二の宮と結婚。  
亡き大君によく似た浮舟と薫の出会い。
- 【第五十帖東屋】 匂宮、浮舟へせまる。薫、弁の尼の手引きで浮舟と会う。  
のち浮舟を宇治へ連れ去る。
- 【第五十一帖浮舟】 匂宮、薫を装って浮舟と契る。薫、浮舟と匂宮の関係を察知する。  
死を決意する浮舟。
- 【第五十二帖蜻蛉】 遺書とおぼしき別れの手紙を残して浮舟入水。  
その死後、匂宮と薫は悲嘆にくれる。
- 【第五十三帖手習】 横川の僧都、浮舟を発見し介抱する。浮舟、小野の山荘に移る。  
手習に明け暮れる浮舟。
- 【第五十四帖夢浮橋】 薫、浮舟の弟小君を伴って横川の僧都を訪ねる。  
小君、浮舟に会いに行くが拒絶される。